

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「自分や家族が心から利用したいと思える福祉サービスを提供する。」事業所理念「地域との関わりの中で、その人らしい生活が継続できるように支える。」をもとに入居者様の尊厳保持・地域交流を大切にしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り(1日3回)時に理念・介護10か条を唱和し確認している。業務ミーティングにて1ヶ月の評価を行い理念の実現を目指している。	○	ケアプラン、行事に盛り込む等実践し評価を行っていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族様へ契約時に理念を説明している。グループホーム内の掲示や家族会の資料・法人の季刊誌で理念を示している。運営推進会議にも理念について話している。	○	運営推進委員、区長にも協力をお願いし、もっと知っていただけるようにしたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方への挨拶を積極的に心がけている。近所の方を行事にお誘いしたり又、こちらから出かけたりして気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会している。地域の行事や不燃物だし、公園清掃に入居者様と参加している。行事に地域の方をお誘いし参加して頂いたり、地域のお店で食事をしたりと交流している。	○	今後も行事に参加でき地域との付き合いを継続できるようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議において、民生委員や市役所の方、家族の方との話し合いの中で地域に住む高齢者の役に立つことがないか情報を把握するように心がけている。入居者様と共に地域の一人暮らしの方を訪問しお話を伺った。	○	地域の音楽会の発表の場など地域に役立てるようにしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価前後、職員で話し合いを行い具体的な改善に取り組んでいる。情報はパソコンや書類で共有している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて月例報告や外部評価結果を報告し運営や介護の質の向上に取り組んでいる。特に家族の意見や地域代表の方からの意見を伺いサービスに取り入れている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回管理者が市を訪れグループホームの利用状況を報告している。市と共にグループホームネットワークを立ち上げ質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会の実施やパンフレットで理解できている。利用者の家族にも制度についての説明を行っており、実際に利用されている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束や言葉かけについての勉強会を実施している。また、マニュアルも作成し、いつでも見ることができるようになっている。職員間でもケアカンファレンスにて話し合いを続け防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際、個別に面談し時間を掛けて対応し十分説明し納得の上で契約を結んでいる。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時自由に話せる雰囲気を作っている。また、職員も入居者様とコミュニケーションを図るように努め意見、不満、苦情を気軽に話せる関係ができており、運営に反映している。また、意見箱の設置もしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月写真入のグループホーム便りを請求書と一緒に送付している。健康状態や金銭管理、暮らしぶりについては随時面会時や電話で報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族全員が運営推進委員であり、自由に意見を表せる機会となっている。また、玄関にも意見箱を設置している。ケアプランの状況報告時にも意見交換を行っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回業務ミーティングを実施しておりその中や事前アンケートで意見、提案を聞き全員で検討している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整、人員配置は臨機応変にできている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の人員はグループホーム玄関にスタッフの写真を掲示しており把握できるようになっている。質問があれば離職の旨を伝えている。入居者様には不安を最小限にするように声かけ、雰囲気作りをしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の年齢・性別で対象から排除されない。可能な限り有給休暇を取得している。また、希望があれば勤務体制を考慮している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会、マニュアルにて人権教育に取り組んでいる。介護基本10か条にも入居者様の人権を配慮した文章を入れている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会や外部の研修に参加することで知識と技術の向上に努めている。法人内でも多くの勉強会の機会を提供している。能力開発カードにて目標に向かって働けるよう支援している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協議会に加入し勉強会に参加している。</p> <p>今年度より市内グループホームネットワークができ交流や勉強会を行ったりしている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務ミーティングやスタッフ間の話し合いで意見交換しストレスを抱え込まないようにしている。事業所で、納涼会や忘年会など実施し職員間のコミュニケーションを図る機会としている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職能給制度を実施している。職員に対して能力開発カードを渡し目標設定を行い、定期的な上司の面接を実施している。</p> <p>目標に向けてスタッフが向上心を持って働いている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にお会いして本人とお話することで関係を作っている。不安があるときなどはグループホームに来てもらったり、自宅に訪問したりする機会を多く持っている。話をよく聞き受容するように心がけている。短期入所生活介護の受け入れもしており不安なく利用できるように工夫している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に面談を行い、時間をかけてご家族が思いを話し管理者もグループホームに対する思いを話すことで最初に関係を作っている。面談以外にも電話にて質問等を受け付けている。話しやすい状況づくりを心がけている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、よく話を伺い必要とされているサービスを見極めるようにしている。他サービス事業所間の連携もとっている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ずご家族様や入居予定の方にグループホームを見ていただいてから入居していただいている。入居前に遊びに来ていただいたりしてなじみやすいようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	花や野菜づくりの得意な方から育て方を教えていただいている。入居者様の経験や得意分野についての質問や相談をしたりと支えあう関係を大切にしている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者様への取り組みをご家族様と一緒に考え協力していただいている。	○	運営推進会議が活発な意見交換の場となるようにしていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様に入居者様の様子を伝え理解していただけるように努めている。ご家族様にも気軽に来所していただき入居者様と自由に過ごして頂いている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出かけると顔見知りの方に会い仲良くお話されることもある。入居前の知人宅へ伺ったりされることもある。昔行かれていたスーパーや食事処にも行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方同士はよく会話が弾んでいる。コミュニケーションが困難な場合はスタッフが中に入り入居者様同士の関わりを大切にしている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後もご家族より相談があれば真摯に対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や現在の暮らしの希望をご本人に尋ねたり、表情や言葉から把握に努めている。また、ご家族様にも話し合いの中で伺い参考にさせていただいている。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に本人の生活歴を記入して頂いたり入居者様の話しの中から把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ふれあい記録やセンター方式のアセスメント、職員間の情報交換で把握に努めている。	○	把握する視点や意識のレベルアップをさらに図る。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施している。ケアプランは入居者様とご家族様、いろいろな職種のスタッフで話し合いながら作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを実施している。毎月、モニタリングを行い実施状況や入居者様の状態の話し合いを行い、適宜変更している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケアプランに基づいて個人毎の実践や気づきを記載している。その結果をケアプランの見直しに活かしている。	○	ケア実施の状況や気づきをより細かく記載し情報を共有し見直しに活かしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様個人個人の生活のリズムを大切に支援している。入居者様の希望にあわせてお出かけしたり、食事もその方に応じた時間に食べていただいている。面会も24時間受け付けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方より文化祭にお誘いいただき参加している。運営推進会議のメンバーに行事があることを教えていただいている。週1回ボランティアに来て頂きふれあいやお話しなど協力していただいている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内でリハビリテーション・ケアハウス・居宅介護支援・デイサービス・ヘルパーステーション等がありまた、連携医療機関の訪問診療、訪問看護もあり相談しやすい。他の事業所にも相談の内容により迅速に話し合いの機会を持っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと共にグループホームネットワークを立ち上げており勉強会等している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週訪問診療にきていただいている。24時間連絡・相談体制が取れている。かかりつけ医は希望により選択して頂いている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて専門医の受診を働きかけたり同行したりして医師との関係を築いている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの看護師が定期的に来所し健康管理を行っている。また、24時間相談を行える体制がある。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際はスタッフや入居者様でお見舞いに行き少しでも本人が安心してもらえるようにしている。退院前にグループホームスタッフが入院先の病院に出向きカンファレンスに参加し、退院後グループホームに戻られている。退院時看護サマリーを提供して頂いている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	連携医療機関とご家族様、グループホームでカンファレンスの機会を持ち支援の指針を検討している。スタッフ同士でも意見交換しご家族様と相談し少しでも長くグループホームで過ごせるよう支援している。入居前の説明時から終末期でも受け入れている事を伝えている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変時いつでも連絡体制が整っている。訪問診療により状態を把握して頂いている。スタッフ同士でも意見交換しまた、ご家族様と相談し状態に合わせて対応し、情報を共有している。指針にできることを明記し確認していただいている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の居所に移る際はご家族様と意見交換したり必要に応じて移った病院や施設と意見交換を行っている。介護情報も提供している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に関するマニュアルがありプライバシーを尊重している。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者様の言動を受け止めて自分の能力を發揮できるように支援している。言葉に出せない入居者様についても様子や表情から汲み取る努力をしている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や場所もお一人お一人に合わせて食べて頂いている。入居者様の希望に合わせて外出したり畑を作ったりしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれについても御本人、ご家族の意向を取り入れている。好みの帽子をかぶって頂いたりしている。外出時には希望に応じて化粧等おしゃれの支援を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳等入居者様とスタッフで一緒に行っている。お茶くみやおぼんだし、ご飯をよそう役割が決まっている。入居者様が作った野菜を食事に出したりしている。おやつは入居者様と一緒に作ったりして楽しんでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を把握し提供できるようにしている。また、梅干やお菓子など持ち込まれている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	すべての入居者様に対してトイレ内での排泄を試みている。排泄表でパターンを把握し支援している。毎月、ケアカンファレンスで検討している。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴できる。一人ひとりのタイミングに合わせて支援している。入浴剤等を入れ入浴を楽しんで頂いている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないときは寄り添ったり飲み物を提供して安心してもらい休まれるよう支援している。日中も必要に応じて休息を取っていただいている。廊下にもソファを置いており気に入った場所で休息できるようにしている。日中、散歩に行かれたりと活動に力をいれ夜は安眠できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の能力を活かして習字や塗り絵、キーボード演奏をして頂いている。また、道具等を取り出しやすい環境を作り、入居者様に廊下掃除・洗濯物たたみ・食事の盛り付け食器拭き等さまざまな役割を持ってもらっている。	○	今後もケアプラン作成時やケアカンファレンス等で入居者様の得意なことを探し活かしていきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別で買い物に出かけられご自分で支払い等されている。(洋服やお菓子など)		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望にあわせて散歩等の外出を支援している。毎月の行事や食事に出かけたりして外出の機会を作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月の行事にご家族様にも案内を出して一緒に参加して頂いている。個別でスタッフと買い物やドライブに出かけている。温泉にも出かけた。本人の行きたいところへ行くことができるようご家族と話し合いを実施している。	○	今後も個別に行きたい場所へ行けるように支援していきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より電話の希望があれば即時に対応している。入居者様はご家族様や友人との葉書・手紙のやりとりができるように支援している。希望があれば個人向けの電話をつけることもできる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族様には気軽に来て頂けるようお話ししており、グループホームでの宿泊も歓迎している。来所時にお茶をお出しして心地よく過ごして頂けるよう心がけている。テーブルやソファを配置して居心地のよい空間作りを心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する勉強会を実施しており、道具による拘束の他に言葉かけにより拘束が生じることをスタッフは理解している。拘束しないのが当たり前という考えで介護をしている		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕方から早朝まで施錠しているが日中は開放しており入居者様や面会の方が自由に出入りできるようになっている。	○	今後も鍵をかけないケアを実践していきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士が気を配り必要に応じて入居者様を支援している。入り口にセンサーを設置し入居者様等の出入りが把握できるようになっている。居室にも障子の小さな窓があり中の様子をうかがうこともできる。必要に応じてヒヤリハットの検討し再発防止に努めている。	○	今後もヒヤリハットの評価をしていき安全に生活できるようにしていきたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	対応マニュアルを作成している。注意物の保管状況を確認しチェックしている。入居者様が使用される場合は安全に使用できるよう見守りを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	対応マニュアルを作成している。事故に対する勉強会を実施し防止に努めている。毎月ヒヤリハットの評価を行い再発防止に努めている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルを作成している。急変に対応できるように勉強会実施している。	○	勉強会を行い知識を共有し応急手当や初期対応の訓練を行う。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に訓練を行っている。訓練後スタッフで話し合いを行いより安全に対応できるか検討している。	○	定期的に訓練、マニュアルの確認を行っていきたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由に生活するうえで転倒の可能性があることを入居前や家族会等で話している。個別にご家族とリスクに関しての話をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化があれば業務日誌申し送り簿に記載し情報を共有している。医師や看護師といつでも相談できる体制がある。	○	早期発見できるようスキルアップに努める。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を見て入居者様の服薬の状況を把握している。変更があった際にも診療カードで全員が把握できるようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	トイレチェック表を作成し排泄の間隔を把握している。便秘の場合は薬だけでなくトイレに座っていただき腹部マッサージをしたり、運動していただいたりまた寒天ゼリーなどの食品を食べていただいたりしている。水分チェック表も活用している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけや支援により清潔保持に努めている。必要に応じて連携病院の言語聴覚士、併設機関の歯科衛生士に相談しアドバイスももらっている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様毎に食事量・水分量のチェックを行っている。食事のみでは栄養バランスの調整が難しい場合は栄養補助飲料の提供を行っている。水分摂取が困難な方にはゼリーを作り食べて頂いている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿って感染予防している。面会者がグループホームに入る前は手を消毒してもらっている。インフルエンザ予防接種も行っている。	○	今後も定期的にマニュアルの確認、勉強会を実施していきたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルに沿って調理用具の衛生管理に努めている。真空調理方式の食事を活用しているが、調理時の温度確認により食中毒にならないように管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	プランターや鉢植えを置いて家庭的な雰囲気になっている。玄関中には絵や人形、観葉植物、花を飾っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに七夕の竹やクリスマスツリー、お雛様を飾り季節感を出している。毎月、日にちがわかるボードを入居者とスタッフで一緒に作っている。スタッフは不快な音を出さないように配慮し、また、カーテン等で光の調整を行っている。	○	今後も生活感や季節感を感じていただけるよう工夫していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のあちこちに椅子やソファが置いてあり自室以外にも一人や気のあった入所者様同士で過ごせる環境を作っている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのものを居室の入り口や室内に置くことで自分の家(部屋)として過ごせるよう工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	生ゴミや汚物処理をこまめに行いいやなにおいがしないように心がけている。起床時には換気に努め、また、空調も一箇所に集中リモコンがあるため必要に応じて調整している。自室は本人に確認し調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には手すりを設置し安全に移動できるようになっている。トイレには車椅子でも入れる広さと手すりがある。浴室も手すりの設置とシャワーチェアで安全に入浴できるようになっている。椅子の高さにも気を配っている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	リビングに大きく日にちを書いたボードを置いている。居室入口に馴染みの物を置くことで自分の家(部屋)として理解されている。本人の能力を活かせるキーボードや習字道具等の備品もある。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者様とスタッフで洗濯物や布団を干している。外回りやベランダに花や野菜を鉢やプランターに植えている。採れた野菜を食事に出している。大きなベランダがありバーベキューをしたりしている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない